Akita University

巻　頭　言

本学会「年報」第16号が刊行されたということは、本学会が誕生してから今年で満16年経ったということであり、従って「年報」が欠けることなく毎年１冊ずつ刊行されてきたということでもあります。この事実はまことに尊いことだと思います。それは会員の皆様の活発な研究活動と本会を発展させようとする熱意の賜だからです。

会員数も４５を数えることになりました。しかも会員は小・中・高・大各校にわたっていて、年会での研究発表および本誌への寄稿論文は各校種におられる会員の共同研究が多いことは他に例をみない本学会のユニークさであります。

算数・数学教育の研究は理論と実践という異質的二面の結合でなければなりません。理論と実践は、前者が仮説演繹体系であり後者は実践者の決断と行為の所産であるという意味で、異質的であるといったのです。そこで両者の結合とは、理論が実践者の決断に寄与し、ひるがえって実践の所産が理論の仮説をより豊かにし理論を進歩させるということです。このことを実現しつつあるのが本学会の特徴であることは誠に喜ばしいことであり、最近の本学会が高く評価されているゆえんでもあります。

本学会は会員数において多きことのみを望まなくても、会員の研究活動の質において高くなることを望みたいと思います。

昭和６４年は本学会創立２０周年となります。この記念として論文集刊行を計画してみてはいかがでしょうか。

世話人代表　竹内　芳男
(山形大学教育学部長)